

横浜市感染症発生動向調査報告（令和6年5月）

《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症の報告が続いています。
- 梅毒は20歳代～50歳代を中心に、幅広い年齢層で患者が多く発生しており、注意が必要です。妊婦の報告もみられます。
- 侵襲性肺炎球菌感染症が多く報告されています。

◇ 全数把握の対象 <2024年4月22日～5月19日に報告された全数把握疾患>

腸管出血性大腸菌感染症	3件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
E型肝炎	3件	侵襲性肺炎球菌感染症	16件
アメーバ赤痢	1件	水痘(入院例に限る)	2件
急性脳炎	1件	梅毒	32件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3件	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1件
後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	4件	百日咳	1件

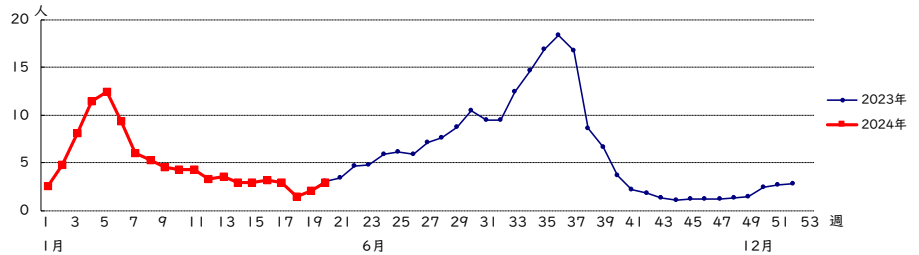
1. **腸管出血性大腸菌感染症**:30歳代～50歳代で、O血清群はO157が1件、O91が1件、O26が1件です。いずれも感染経路等は不明です。
2. **E型肝炎**:40歳代～70歳代で、経口感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が1件です。
3. **アメーバ赤痢**:50歳代で、感染経路等不明です。
4. **急性脳炎**:20歳代で、病原体は不明です。感染経路等も不明です。
5. **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:80歳代～90歳代で、血清群はG群が2件、血清群不明が1件です。創傷感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が1件です。
6. **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:20歳代～50歳代で、感染経路は性的接触(同性間3件、詳細不明1件)と推定されています。
7. **侵襲性インフルエンザ菌感染症**:90歳代で、飛沫・飛沫核感染と推定されています。
8. **侵襲性肺炎球菌感染症**:10歳未満～80歳代(ワクチン接種歴4回5件、1回2件、無4件、不明5件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が1件、接触感染と推定される報告が1件、その他の感染経路と推定される報告が1件、感染経路等不明が13件です。
9. **水痘(入院例に限る)**:20歳代～80歳代(ワクチン接種歴不明2件)で、接触感染と推定される報告が1件、感染経路等不明が1件です。
10. **梅毒**:10歳代～60歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期13件、早期顕症梅毒Ⅱ期12件、無症状病原体保有者7件です。性的接触による感染と推定される報告が30件(異性間25件、同性間3件、詳細不明2件)、感染経路等不明の報告が2件です。
11. **バンコマイシン耐性腸球菌感染症**:70歳代で、感染経路等は不明です。
12. **百日咳**:10歳代(ワクチン接種歴4回有)で、感染経路等不明です。

◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
2024年第17週	4月22日～4月28日
第18週	4月29日～5月 5日
第19週	5月 6日～5月12日
第20週	5月13日～5月19日

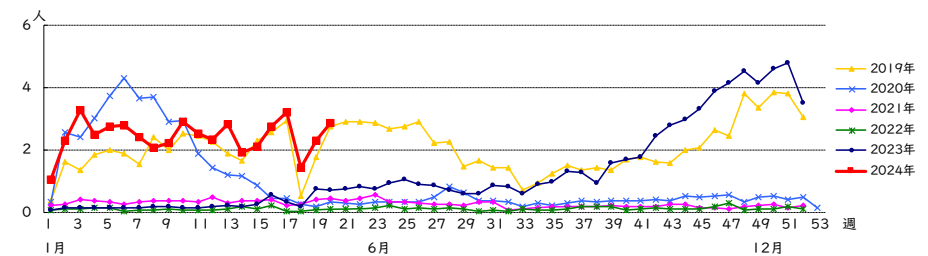
1 新型コロナウイルス感染症

2024年第5週(12.45)をピークに減少し、その後横ばいの状態で推移しています。第20週は2.91です。



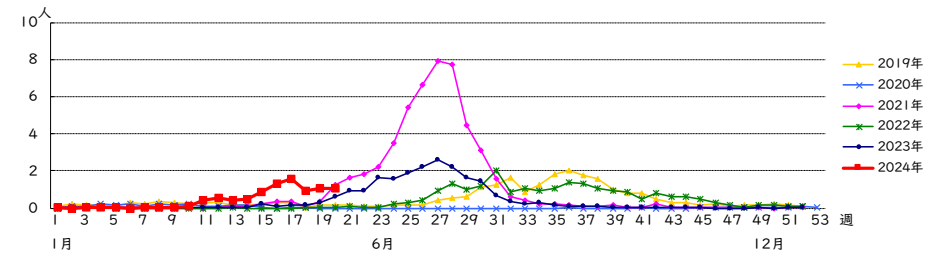
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

2024年第20週は2.84で、年始からはほぼ一定の水準で推移しています。



3 RSウイルス感染症

例年より早い時期に報告数が増加し、2024年第17週に1.59まで増加しました。第20週は1.07です。



4 性感染症(2024年4月)

性器クラミジア感染症	男性:33件	女性:20件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:12件	女性: 9件
尖圭コンジローマ	男性:11件	女性: 4件	淋菌感染症	男性: 8件	女性: 2件

5 基幹定点週報

	第17週	第18週	第19週	第20週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.25	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

6 基幹定点月報(2024年4月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	11件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

2024年第17週～第20週に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点27件、内科定点6件、基幹定点1件、定点外医療機関1件でした。

5月31日現在、表に示した各種ウイルスの遺伝子18件が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(2024年第17週～2024年第20週)

主な臨床症状等 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	突 発 性 発 疹	インフルエンザ・ COVID-19 疑い	夏 カ ゼ
パラインフルエンザウイルス1型	- 1	- 1			
ライノウイルス	- 2	- 1		- 2	- 1
ヒトメタニューモウイルス	- 1				
RSウイルス		- 7			
アデノウイルス		- 1			
ヘルペスウイルス6型			- 1		
合 計	- 4	- 10	- 1	- 2	- 1

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

2024年第16週～第20週の「菌株同定」について医療機関からの検査依頼は、基幹定点医療機関から侵襲性肺炎球菌感染症3件、定点以外の医療機関からA群溶血性レンサ球菌による菌血症1件、BCG株によるリンパ節炎1件でした。

保健所からの検査依頼は、腸管出血性大腸菌感染症2件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症3件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症6件、侵襲性肺炎球菌感染症6件、バンコマイシン耐性腸球菌1件でした。

「分離同定」の検査依頼はありませんでした。

「小児サーベイランス」の検査依頼は溶血性レンサ球菌咽頭炎1件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2024年第16週～第20週)

菌株同定	項目	検体数	血清型等	
医療機関	基幹定点	侵襲性肺炎球菌感染症	3 <i>Streptococcus pneumoniae</i> 31 (1) <i>Streptococcus pneumoniae</i> 22F (1) <i>Streptococcus pneumoniae</i> 6B (1)	
	非定点	菌血症	1 A群溶血性レンサ球菌 T1型 (1)	
		リンパ節炎	1 <i>Mycobacterium bovis</i> BCG (1)	
保健所		腸管出血性大腸菌感染症	2 O26 : H11 VT1 (1) O91 : H- VT1 (1)	
		カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	3 <i>Klebsiella pneumoniae</i> (1) <i>Escherichia coli</i> (1) <i>Klebsiella aerogenes</i> (1)	
		劇症型溶血性レンサ球菌感染症	6 A群溶血性レンサ球菌 T1型 (2) A群溶血性レンサ球菌 T11型 (1) G群溶血性レンサ球菌 (3)	
		侵襲性肺炎球菌感染症	6 <i>Streptococcus pneumoniae</i> 24B (1) <i>Streptococcus pneumoniae</i> 23A (1) <i>Streptococcus pneumoniae</i> 35F (1) <i>Streptococcus pneumoniae</i> 15B (1) <i>Streptococcus pneumoniae</i> 24F (1) <i>Streptococcus pneumoniae</i> 34 (1)	
		バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1 <i>Enterococcus faecium vanA</i> 保有 (1)	
小児サーベイランス	材料	臨床症状	検体数	同定、血清型等
小児科定点	咽頭ぬぐい液	発熱、咽頭炎、咽頭痛	1	A群溶血性レンサ球菌 T1型 陽性 (1)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】